

【MACF 礼拝説教要旨】

2022年5月15日

【その判断は大丈夫ですか？】

ルカによる福音書7章31節～35節)

7:31 「では、今の時代の人たちは何にたとえたらよいか。彼らは何に似ているか。

7:32 広場に座って、互いに呼びかけ、こう言っている子供たちに似ている。

『笛を吹いたのに、踊ってくれなかった。葬式の歌をうたったのに、泣いてくれなかった。』

7:33 洗礼者ヨハネが来て、パンも食べずぶどう酒も飲まずにいると、あなたがたは、『あれは悪霊に取りつかれている』と言い、

7:34 人の子が来て、飲み食いすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言う。

7:35 しかし、知恵の正しさは、それに従うすべての人によって証明される。」

1)今の時代の人たち

イエス様はバプテスマのヨハネが民衆には受け入れられているのに社会的に影響力の強い宗教指導者たちからは反感を買っている様子を理解し、「今の時代の人たち」という表現で彼らを批判しました。

2)子供たちが互いに反目し文句を言い合っている姿と重なる大人の姿

イエス様は今の時代の人たちの様子を半目しあい、文句を言い合っている子どもたちに例えました。

7:32 広場に座って、互いに呼びかけ、こう言っている子供たちに似ている。『笛を吹いたの

に、踊ってくれなかった。葬式の歌をうたったのに、泣いてくれなかった。』

互いに同じ方向を向こうとしない、遊びが成立しない状況がここにありますが。これは互いの判断の基準が

* 自分の意にかなうか、かなわないか (こちらの気に入ったことだけやってくれるかどうか)

* 好きか嫌いか・・・

* 気分がのっているか、そうでないか ということにかかっているため、互いに前向きになれないのです。

これはまさに、現代社会に起こっているできごと、そのものとも考えることができます。

現代社会にはものの便利さがあり、これがいやなら、あちらを選べるような選択肢があります。

そして、自分の思い通りになる世界が一番だと思込まされて、便利なものを買わされ、自分の気に入らないものは無視しても良いのだと思込んでいます。

しかし、実際は、そこにはおおきな損失が生まれています。

自分の気に入ったものしか食べないとなれば偏食ということですし自分の気に入った人しか話さないということになれば人格障害に陥る可能性があります。

自分の気に入ったものしか学ばないとなれば、かなり偏った知識が行動を指示することになり反社会的な方向に向かうことも不思議なことではなくなります。

聖書が示す教えは「善人も悪人も含まれている神の愛の福音」の提示です。

自分だけ、とか、自分の気に入った人だけに神の祝福が届くというのではないのです。

でも、当時の宗教指導者たちの中には「自分たちへの祝福」こそ本物であり罪人たちが祝福にあずかることなどありえないと考えていました。

要するにきわめて独善的、独断的な発想であり、ほぼ「思い込み」に等しいものでした。

そういう判断でヨハネのことを見、イエス様のことを見ている彼らがなんと言っていたかという

7:33 洗礼者ヨハネが来て、パンも食べずぶどう酒も飲まずにいると、あなたがたは、『あれは悪霊に取りつかれている』と言い、

7:34 人の子が来て、飲み食いすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言う。

ヨハネに対しては『あれは悪霊に取りつかれている』とレッテルを貼りイエス様に対しては『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言っていたのです。

これらの発言は上から目線の発言であり、自分たちを批判し、悔い改めて神のもとに立ち返るように迫るヨハネのことも、イエス様のことも「気に入らない」と意識の中で切り捨てたのです。

そうすると、本当に素晴らしい解放の言葉が語られ、希望の言葉が語られ、神の愛が示されていても、彼らは自分の気に入るものだけを自分の気に入った形でしか受け取ろうとしないので、まったく心に響かないのです。

3) その判断は大丈夫ですか？

(知恵の正しさ・知恵を正しく使うことの大切さ)

イエス様はそういう彼らの姿勢を嘆きつつ、こうまとめました。

7:35「しかし、知恵の正しさは、それに従うすべての人によって証明される」

神様からの語りかけを受け止め、神様からの促しを心にしっかり感じ取り、それを信頼するならば必ず「神様の祝福」が届くのです。

わたしたちは、いろいろな場面で、自分の失敗を嘆くことがありますが、同時に、神様の言葉を教えられて良かった、神様の促しに応えながら

生きられて良かったと思い出せる出来事があるはずですよ。

聖書の言葉を聞きながら

* 自分の意にかなうか、かなわないか
(こちらの気に入ったことだけやってくれるかどうか)

* 好きか嫌いか・・・

という気持ちになっていないかどうか、ちょっと吟味が必要かもしれません。

ここまで礼拝のメッセージを読んでくださっているあなたには、そういう思いはそれほど強いわけではないかもしれませんが、人間の本質的な部分には悲しいことですが「神様、お願いだから、こちらの気に入ることだけやってくれ」と言い張っている心があるのです。

子どもたちでさえ、心穏やかに「一緒にやろう」という気持ちになれるわけですから、大人はなおさら模範を示すことが出来てよいはずなのですが

実際は、全く逆ですね。戦争は大人が仕掛けた愚かな「断絶」であり「一緒にやろう」「一緒に生きよう」という希望を破壊する狂気に近い出来事です。

そして、今、世界が「自分たちの意にかなったことだけさせようと互いに牽制し、武力でも言うことを聞かせようと躍起になっています。それは異常な状況です。

わたしたちは相手の気に入ることだけを実行することはできません。

奴隷ではないからです。

それを知っていながら相手にはそれを求めるとすれば理論的に破壊しています。

自分の気に入ることだけを神様に求める空気が蔓延しています。

神様からの求めについては、気に入ればやるし、そうでなければ無視という感じの聖書の読み方も多いかもしれません。

しかし、それは神の教えておられる知恵を無視しています。

神様には何でもこちらの要望や言うことをこちらの気に入る方法で応えてほしいと願いつつ、神様からの求めについては「気に入ったらやります」

とか「そんなことわたしにできるわけがありません」と無視してしまうことがあるのです。

そして、その態度は神様に対してだけでなく、人に対しても同じだとしたら、信頼関係が育たず、むしろ孤独や孤立、反目を生み出し、抑えきれない怒りや憤りをどこかにぶつけながら生きることになるでしょう。

そこには平和はありません。

そこには神の知恵も神の愛も歓迎される雰囲気がありません。

心を開き、落ち着いた気持ちで聖書の言葉に向かうこと。

聖書の教える知恵を求めて、聖書の言葉を感じ取り、味わうこと。

思い巡らす作業を繰り返しながら、神様に尋ね、自分の心に受け止めること。

そういう作業は「独善的」「独断的」にならないために有益です。

今朝、もう一度ゆっくりテキストを読んで、心に響く神様からの語りかけをしっかりと受け止め、味わってみましょう。ゆっくり、ゆっくり、心に留まる言葉を味わいながら、このテキストを読み返し、感じ取ってみましょう。

7:31 「では、今の時代の人たちは何にたとえたらよいか。彼らは何に似ているか。

7:32 広場に座って、互いに呼びかけ、こう言っている子供たちに似ている。

『笛を吹いたのに、踊ってくれなかった。葬式の歌をうたったのに、泣いてくれなかった。』

7:33 洗礼者ヨハネが来て、パンも食べずぶどう酒も飲まずにいると、あなたがたは、『あれは悪霊に取りつかれている』と言い、

7:34 人の子が来て、飲み食いすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言う。

7:35 しかし、知恵の正しさは、それに従うすべての人によって証明される。」

* *

神様の求める生き方、神様の促しに耳を傾け、自分に都合が良いとか悪いとか関係なく、自分の気に入るか、気に入らないか関係なく神様からの語りかけを受け止めましょう。

* * *

MACF 礼拝映像はこちらです。

https://youtu.be/YHCxo-o_c0w

*映像の中では、今日、説教のあと、聖書の言葉を思い巡らして味わい、感じ取るための時間をとっています。

